

多くの魚の生息域となっている砂浜浅海域

砂浜海岸にはどれくらいの魚が生息しているかご存知でしょうか？

香川県ではヒラメ稚魚の生態調査のため、平成7年より燧灘（ひうちなだ）の水深1~6mの砂浜浅海域でソリネットと呼ばれる網を用いて、海底近くに棲む魚を採集しています。ヒラメ稚魚は主に5月下旬から7月にかけて出現しますが、その他の魚はどの時期にどれくらいの大きさで出現するのかあまり知られていません。そこで、砂浜浅海域における周年の魚類の生息状況を調べました。

三豊市大浜海岸の浅海域（水深1.0~5.7m）で平成14年5月~平成17年9月にソリネットを曳く調査（曳網距離200m×4

曳網）を計37回（計148曳網）実施しました。表層の水温は9.0（2月）から30.3℃（8月）の間で変動しました。全調査で39種以上14,013尾の魚類を採集しました（表1）。出現魚種数と採集密度は水温が上がる春から夏に上昇し、水温が下がる秋から冬に下降しました（図1）。採集数が多かった魚種は、ヒメハゼ（個体数割合：62.6%）、アラメガレイ（11.4%）、シロギス（6.7%）、ネズッコ属（6.4%）、ササウシノシタ（3.3%）、ヒラメ（3.2%）、アミメハギ（1.9%）、トビヌメリ（1.6%）、コチ属（1.0%）、マダイ（0.5%）でした。大部分の魚類は稚魚でした。今回の調査から砂浜浅海域が多くの稚魚の生息場となっていることが明らかとなり、瀬戸内海の漁業生産を維持・向上させるためには、アマモ場やガラモ場と同様に砂浜の保全も重要であることが示されました。

【参考文献】

山本昌幸：瀬戸内海燧灘東部海域の砂浜域におけるヒラメ着底仔稚魚の摂餌生態。香川水試研報 8, 17-67. (英文)

山本昌幸・小路 淳：瀬戸内海燧灘東部の砂浜浅海域における底生魚類相の季節変化。2016:水産増殖 64, 53-61.

(文責 主任研究員 山本昌幸)

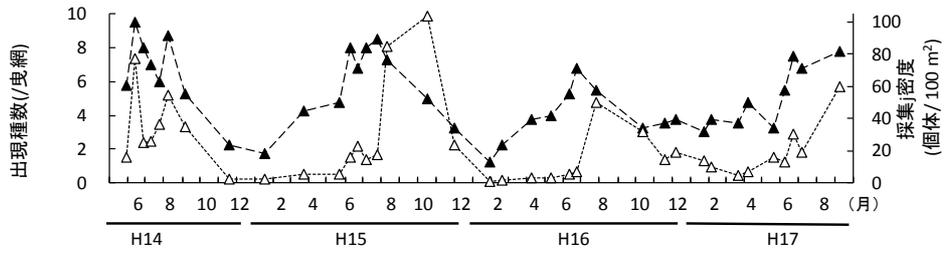


図1 出現魚種数(▲)と採集密度(△)の季節変動

表1 採集された魚類のリスト

種名	採集個体数		採集月	全長範囲(mm)
	計	順位		
コノシロ	9		5, 6	9.4-14.5
カタクチイワシ	6		5, 6, 8, 11	12.1-56.9
トカゲエソ	1		7	50.8
ヨウジウオ	7		5-7, 9	51.5-196.0
サンゴタツ	4		6, 7	35.0-62.1
シロメバル	6		1-5	27.0-44.5
ハオコゼ	33		5-9, 12	7.0-80.0
オニオコゼ	1		12	105.1
コチ属	142	9	5-9	10.4-41.5
スズキ	6		3, 4	15.8-21.5
コショウダイ	4		7, 9	11.3-13.0
キチヌ	2		11	15.1-15.4
マダイ	76	10	5-7	10.2-30.3
シロギス	934	3	6-10	8.8-26.7
スズメダイ	3		7	9.8-11.3
キュウセン	9		6-10	16.0-193.0
ホンペラ	1		8	11.4
クジメ	1		5	67.5
アサヒアナハゼ	10		2, 4-6	17.5-67.2
イカナゴ	7		3, 4	41.7-56.3
イソギンポ	3		6, 7, 11	17.3-20.4
ネズミゴチ	6		8, 11	32.9-40.8
トビヌメリ	224	8	1-12	25.1-141.5
セトヌメリ	1		8	89.8
ネズッコ属	900	4	1, 2, 4-12	6.0-46.2
サビハゼ	1		12	70.5
アカオビシマハゼ	9		6-8, 11	15.0-70.3
ヒメハゼ	8,778	1	1-12	9.0-75.7
ニクハゼ	1		6	26.6
ビリンゴ	1		7	29.6
ヒラメ	444	6	4-9	10.0-162.1
放流ヒラメ	2		6, 7	103.2-173.2
アラメガレイ	1,597	2	1-12	9.2-72.3
イシガレイ	25		3, 4	15.6-27.4
マコガレイ	26		3-6	10.1-53.0
ササウシノシタ	458	5	4-12	7.2-143.0
コウライアカシタビラメ	1		9	213.5
アミメハギ	266	7	2, 4-12	5.3-43.1
ウマヅラハギ	2		7	12.5-27.3
カワハギ	1		8	41.5
クサフグ	5		2-4, 6	84.5-114.0
合計	14,013			